第4期［2016年～］

品川浦、天王洲、五反田、勝島、八潮、オール品川の広域連携へ

平成28年（2016年）　京浜運河エレクトリカルボートパレード
平成29年（2017年）　しながわ・大田水辺の観光フェスタ
平成30年（2018年～）　しながわ水辺の観光フェスタ
令和4年（2022年）　南品川櫻河岸　まちなか観光案内所　オープン
令和4年（2022年）　東品川船着場　完成

東京2020大会の開催という大きなエポックに向けて、「インバウンド」や「水辺を活かした都市型観光」が品川宿にとって重要なテーマとして認識されるようになった。

それに先駆け2016年に開催された『京浜運河エレクトリカルボートパレード』は、東京2020大会で世界中から品川を訪れる方々を意識し、実施された実験的でチャレンジングなイベントとなった。このイベントがきっかけとなり、この後『しながわ水辺の観光フェスタ』につながる各エリア間の連携や、屋形船をはじめとする観光事業者と地域の結びつきが形成されていった。

さまざまな団体メンバーや地元団体などが、一つのイベントの成功に向けて協力し、品川らしいお祭り感のある企画づくり、オール品川で開催を目指す体制が確立されていく。



「京浜運河エレクトリカルボートパレード」

2020年東京オリンピック、パラリンピックで、世界中から訪れる人たちを、品川らしく、楽しくおもてなししよう！という気運の中で、2016年8月6日（土）「水辺の賑わい創出事業」（東京観光財団助成事業）として、開催された。イベントの内容は、清掃活動、Eボート体験会、周遊船やボートパレード、光の演出、ステージ、ナイアガラの花火を実施した。

運河や橋の利活用にチャレンジし、きらびやかなボートや、かもめ橋でのナイアガラの花火といった、非日常のユニークな風景をつくりだした。また、水辺に関連する団体が、広域で連携し、屋形船などの観光事業者と地域団体、行政との連携が深まったことで、その後の水辺活動が発展する土台が形づくられた。

＼そして、2022年4月、品川区により東品川海上公園船着場が整備／

4年以上にわたるコロナ禍の期間を経て、現在、品川に住まう人々にとっての「身近にある水辺のあり方」と、品川を訪れる方々に向けた「水辺を活かした都市型観光のあり方」という2つのテーマで、これからの活動のカタチ、方向性が問われています。　議会の原点に立ち返り、改めてみなさまと夢を語り合う場をつくり、水辺の活動を発展させていきたいと考えています。

この30年の年月の中で、品川宿には多くの仲間、多様な活動が増えました。間違いなく「まちの宝」。活動がスタートした90年代のように、「自分たちのまちは、自分たちでつくろう！」というまちづくり協

今後とも、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします！

特別事業「品川宿観光PR」

体験プログラムを組み合わせた「まち歩き」を事業に

今後の観光PRには欠かせない事業として、ゲストハウス品川宿のスタッフを中心に3つの体験プログラムを商品化し事業実験を実施した。なお「まち歩き」は、街道文庫の田中義己さんにお願いした。

第1回目ツアー
「水辺をめぐり品川宿の歴史を追体験」
品川神社から緒明邸跡周辺のまち歩きの後、東海橋防災船着場から東京初のプライベート水上タクシーに乗船。第六台場、第三台場をめぐり、品川宿と水辺の移り変わりを追体験。

第2回目ツアー
「御殿山歴史散策と蒔絵体験」
御殿山周辺のまち歩きの後、「ぎゃらりー一連」にて、世界にひとつ、自分だけの漆の器をつくる伝統工芸を体感。

第3回目ツアー
「東海七福神めぐりと和菓子体験」
一心寺から養願寺、荏原神社へとまち歩きの後、日本茶喫茶「茶箱」にて、プロの和菓子職人に教わりながら季節の和菓子作りを体験。

この事業実験を元に、新しい観光プログラムを商品化し事業展開していく予定である。



評判が良かったプライベート水上タクシー

新たなPR動画が4本追加、ぜひお楽しみください！

1-品川宿人物図会：地域で活躍する魅力的な人物を通して、品川宿をPRする動画。
その1）井上明裕（3分8秒）：しながわっ子プロジェクト責任者。地元小学校の歴史まち歩きの発案者でありプロデューサー。なぎさの会の主要メンバーでもある。
その2）塚田園樹（7分26秒）：本照寺住職。古民家を改装した寺子屋を主宰し、地域の文化活動、イベント、わいわいごはん（こども食堂）などを支援する。
2-品川宿名所図会：歴史的なスポット、価値ある見所を通して、品川宿をPRする動画。
その1）「東海道」（4分30秒）：線形、起伏、傾斜、今も400年前と変わらぬ東海道。この道こそ、もう他の地域には残っていない、日本の貴重な歴史遺産である。
その2）「南馬場　問屋場」（3分47秒）：問屋場として栄えた南馬場は、物流の拠点である品川宿と武蔵国一円を結ぶ、碑文谷道、池上道の起点でもある。この南馬場には様々な歴史物語が眠っている。
この他にも「品川宿人物図会」では、水辺プロジェクトの大竹幸義さん、なぎさの会の小日向亮輔さん、ハレルヤ工房の玉井香織さん、宿場ジャパンの和田紀子さん、事務局長の木村眞基さん、街道ブック&コーヒーの佐藤亮太さんの動画が。また「品川名所図会」には、「品川宿は鉄道のまち」、「品川寺のお地蔵さま」などの動画をアップしている。以下からぜひ、お楽しみいただきたい！

①まちづくり協議会ホームページ：https://www.toukaido-shinagawashuku.com/
②YouTube：チャンネル名「品川宿まちづくり」





発行：旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

東海道品川宿
宿品 会報みこしだこ
2023年 新年度版
2023年7月28日発行 第60号

新年度のご挨拶

大暑の候 皆様方におかれましては、ますますご壮健のこととお喜び申し上げます。

去る4月8・9日（土・日）に東品川海上公園や周辺で行われた「しながわ運河まつり」では、土曜日は悪天のため、残念ながら打上花火は中止になってしまいましたが、2日間コロナ前と変わらない多くの来場客の笑顔が溢れました。また4月21～23日（金～日）に開催された天王洲キャナルフェスでは、実に人出の半分近くが外国人だったことに驚くと同時に、しながわ観光も元に戻りつつあるということを実感して大変嬉しく思っております。

入国の緩和と共に5月8日には5類に移行されたことで、品川宿やその周辺でも外国人をはじめ、多くの旅行者の来宿が一層見込まれることでしょう。

そんな中、大変嬉しいニュースが入ってまいりました！

今年度に入り昨年4月にオープンをし、数々のロケやまち歩きの方々をお迎えしてきた「南品川櫻河岸 まちなか観光案内所」の建物が、この夏、国の登録有形文化財（建造物）となることがほぼ決まりました。ご尽力いただきました品川区の担当部署の皆さんに感謝致すと同時に、品川宿の先人たちが守り、我々の代まで繋いでくださったこのまちの大切な宝を、今後も品川宿のランドマークとして、次代に繋いでいかなくてはならないと気を引き締め直したところです。

今後、京浜急行立体化に伴う北品川駅前広場や周辺の開発計画等も実際に動き出し、品川宿のコミュニティや東海道の道幅・横町を守るためにやらねばならないことが山積で、何としてもこの東海道品川宿や周辺の風情を次代に残していきたいと考えています。

また、東京2020大会のホッケー競技場が大井ふ頭中央海浜公園にできたことで、数年前からこのレガシーを残し伝え、ホッケー競技の応援機運を盛り上げるために様々な動きをしてまいりました。

本年1月にインドで開催されたFHI第15回男子ホッケーワールドカップ2023に、日本代表サムライジャパンを応援するため、横断幕を製作して出向きました（右上写真）。4月に富山で行われた品川をホームとする男子ホッケー「フリークス東京」の試合にも、まちづくりの仲間たちと共に横断幕を掲げにサプライズ応援に行ってまいりました。その他にも品川をホームとする東京ヴェルディ女子ホッケーチームの応援も、まちづくりの仲間達が応援・運営協力をしています。

今後、ホッケーのみならずブラインドサッカー、デフサッカー等、障がい者スポーツも地域ぐるみで応援して、スポーツツーリズムにもつなげて盛り上げていきたいと考えております。

いよいよ10月にはお隣の東海道川崎宿が



起立400年を迎え、10/21・22（土・日）には400年記念イベントと合わせ「東海道シンポジウム川崎宿大会」が開催されます。品川宿からも大勢でお祝いに駆け付けたいと思いますので、みなさん一緒に行きましょう！参加に興味ある方はまち協事務局まで、お声がけください。

本年も東海道、スポーツ応援など多岐にわたるキーワードで品川宿を益々盛上げ、来宿する旅行者をおもてなしの心でお迎えしていきたいと思います。つきましては、今後とも皆さまの変わらぬご理解とお力添えを心からお願い申し上げます。

最後に、本年4月に品川宿の城南信用金庫様と東海道沿いの各信用金庫様のお力添えにより販売がスタートしております東海道御宿場印。日本橋から京都三条までの五十三次が「東海道」をキーワードに、両起点・各宿場が一つの事業で繋がりました。今後は京都三条の手前、大津宿より大坂までの五十七宿を繋げて行かれればと考えております。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
会長　堀江 新三

特別事業「品川宿観光PR」

幻の山車も出現！　なつかしい祭りの写真展

各町会から収集した120点と昭和初期に飯島寿氏が撮影した40点、さらに祭礼の解説を加え、写真展「品川宿の祭り～大正から昭和へ～」を品川宿交流館で開催した（令和4年10月7日～令和5年3月31日）。北品川に関しては、品川神社と北品川二丁目町会の全面的なご協力をいただき、写真集「セピア色の品川」から多くを使わせていただいた。

一方これまで収集が進んでいなかった、南品川、東品川の写真が各町会から数多く集まったことは大変意義があった。中には、北品川一丁目の「桃太郎山車」や、南品川宮本の「龍神山車」など、地元の方もご存知のない写真や、南品川の神輿が連合して台場横丁を上がってくる写真など、貴重な記録が数多くあり話題となった。



写真展を告知するチラシ

25年ぶりに、「まち歩きマップ」を全面改訂！

これまで50円で販売してきた「まち歩きマップ」は、協議会が平成7年に北品川1丁目に初めて「新宿お休み処」を設営した時に配布を始めたものが初版。以来、部分的な訂正を繰り返して来たが、アナログの手描きマップがベースのため、さすがに25年も経つと、改訂作業が難しくなっていた。今回の全面改訂を機に、地図のデフォルメ（変形）も解消され、使いやすくなった。また、観光協会が発行するマップとは役割、機能を切り分け、片面は「まちの見所ポイント」、片面は「品川宿とまちづくり協議会の情報」で構成した。またオール4色となったため、写真も数多く掲載することが出来、見やすくわかりやすいマップとすることが出来た。



仕上がりサイズA版：横140mm縦290mm（全体サイズ：横840mm縦290mm）オール4色、5つ折り。印刷：1万部。無料配布。

（裏面へ続く）

祝！ 東品川海上公園船着場 整備

まちづくり協議会「水辺プロジェクト」を振り返ってみよう！

2022年4月、これまでの議論と地道な活動が実り、東品川海上公園船着場が整備されました。
「こどもの頃に遊んだような、身近な水辺を取り戻したい」堀江さんをはじめとした地元のそんな想いが、
平成7年『東海道品川宿まちづくり計画書』にて、「暮らしの中の水辺をとりもどす」という目標として立ち上がり、
約30年の月日の中でさまざまな活動、取り組みに繋がってきました。
勢いだけのアクション（笑）やカタチになった整備や、当初は想定していなかった都市型観光への期待、
花火大会などインパクトのあるイベントへの想像を超える発展など、大きな変化を乗り越えて現在に至ります。
東品川海上公園船着場の整備という好機を受けて、
これからも「水辺を活かしたまちづくり」を楽しく語り合うために、活動の源流を振り返ってみました。

＊参考資料：「総会資料」、「会報みこしだこ」、「品川宿33年間の活動報告」内、水辺の活動に関連する記載より





第1期［1988年～］ まちづくり協議会の設立と同時に、「水辺」をテーマとした議論と活動がスタート

昭和63年（1988年）　旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会　設立
平成4年（1992年）　目黒川や東品川海上公園（予定地）周辺をボートで視察
平成5年（1993年）　「水辺環境プロジェクト」発足　まちづくり計画書の策定や、東品川海上公園の整備を見据えて議論が行われる
平成7年（1995年）　「東海道品川宿まちづくり計画書」策定

「子ども時代の水辺の記憶」（遊んだ記憶!?）を原動力に、堀江会長を筆頭に「水辺の魅力」をまちづくりに活かそうという議論（夢を語り合う!）と活動の産声があがる。
「まちの宝探しワークショップ」（1991年）から生まれた『まちの宝探しマップ』（1992年）の中に、水辺に関する記載があり、当時のまちづくりに関わるメンバーにとっても、水辺は大切なお宝であったことがわかる。
品川の宝「風景」（「まちの宝探しマップ」より）
◎水と船は、今も品川のまちによく似合います
◎品川浦や勝島運河の情緒ある船だまり
◎目黒川から船で家の中まで入れる堀割があった
◎目黒川の改修で南品川から漁師町への道は分断されましたが、今も面影が残っています
◎昭和初期、東海道の海側の家には庭にボートがあり、ボート遊びをしました
『東海道品川宿まちづくり計画書』（平成7年／1995年）に「4-1 水辺空間の活性化」として、品川宿のまちづくり活動の骨子となる。
～『かっぱ祭り』は、この地域が海辺のまちであった記憶を、今に伝えています。水辺空間の活性化とは、海辺と共に生きてきたこのまちが、再び自分の手足で水に触れることのできる水辺空間を取り戻すための計画です～「暮らしの中の水辺を取り戻す」を目標に、さまざまな要望や提案が計画書の中に盛り込まれた。
◎（東品川海上公園の整備に向けて）カヌー・ボートの拠点（スロープ、小屋）、桜を植えて名所にする、目黒川緑道をつなぐボードウォークの整備、水上レストランの計画など
◎また、風情ある面影を漂わせている船溜まりの風景を大切に保存していきたいということも記載されています。

第2期［2001年～］ 議論からアクションへ、水辺活動の起点となる浮き桟橋の設置

平成14年（2002年）　しながわ花海道への参加協力／水辺プロジェクトとして再始動
平成16年（2004年）　品川浦天王洲地区運河ルネサンス協議会の設立
平成18年（2006年）　東品川海上公園、勝島運河に浮き桟橋を設置
鮫洲立会川運河ルネサンス協議会の設立／勝島運河倶楽部の設立
「京浜運河の既存ストック・バージ船の多目的利用に関する調査」

2001年の「東海道四百年祭」を経て、改めて地元を見つめ直す機運が高まり、2002年の「しながわ花海道」への参加をきっかけに、水辺プロジェクトが再始動。
この時期からしながわ観光協会の協力のもと、「水辺の魅力を都市型観光の柱にしよう」という新たな機運が動き出す。また、東京都の運河ルネサンス（政策）によって、水辺の魅力向上や観光振興と一体となったまちづくりが求められるようになり、運河ルネサンス協議会が設立。関係機関の協力により、東品川海上公園と勝島運河に浮き桟橋が整備され、この後の活動の大きな起爆剤となった。
同年、「京浜運河の既存ストック・バージ船の多目的利用に関する調査」の一環として、大井競馬場桟橋（京浜運河）にバージ船を係留し、ライブコンサート、防災サバイバル実験、アート展などの企画が実施された。
この大井競馬場桟橋の利活用実績は、2016年「京浜運河エレクトリカルボートパレード」の実施につながる重要な先行事例となった。
当時の中心メンバーであった井出玄一さんの想い（会報みこしだこ（平成19年／2007年）」より抜粋）
～かつて品川は、東海道と漁師町を中心とした『水辺の街』でした。また、水辺は粋で自由な大人の遊び場でもありました。こうした歴史を見直しながら、私たちの時代における新しい水辺遊びを創り出していきたいのです～
この「水辺」への想いは、第3期（2008年～）以降、なぎさの会メンバーを中心に引き継がれていく。

「しながわ花海道」

広く一般市民を対象として、四季折々の花壇づくりによって、地域の憩いの場を提供し、また勝島運河周辺のまちおこしの活動を通じて、うるおいのある地域社会づくりを行い、自然豊かで調和のとれた地域社会づくりに貢献することを目的としている。
2002年に品川区立会川、鮫洲両商店街の有志が中心となり「しながわ花海道プロジェクト」の名称で活動を開始。勝島運河の護岸約2ｋｍに菜の花やコスモスを植え、護岸上部の清掃を進め、地域の活力につながる場所づくりを目指した結果、多くの方々が花と水辺を楽しみながら遊歩道を楽しんでいる。春は菜の花と桜、初夏はアサイなど四季に合わせて花が楽しめ、観光資源としても着目されている。





「勝島運河倶楽部が設立」

2005年12月　勝島運河倶楽部発足し、「遊ぶ」「学ぶ」「育てる」をテーマに、
勝島運河や東品川海上公園を中心に活動している。
遊　ぶ……Ｅボートによる体験教室　他　　子供たちと遊ぶ、大人が遊ぶ、とにかく真剣に遊ぶ
学　ぶ……まち歩き、環境学習、マナーの学習　他　　まちを学ぶ、自然を学ぶ、マナーを学ぶ
育てる……　　人を育てる、蝶を育てる、花を育てる、提案する。

第3期［2007年～］ 東品川海上公園オープン！ 多様なメンバーの参加により、水辺の活動が一層盛り上がる!

平成19年（2007年）　3月31日　東品川海上公園の全面開園（記念式典イベント）
平成20年（2008年）　第1回しながわ運河まつり（主催：なぎさの会　共催：まちづくり協議会）
平成21年（2009年）　品川宿交流館　開館
平成22年（2010年）　「目黒川で泳ぎ隊」の設立
平成23年（2011年）　タイ洪水被害復興支援クリスマスチャリティ品川ダックレースin目黒川
平成24年（2012年）　目黒川流域交流会設立
平成25年（2013年）　目黒川流域シンポジウム
平成27年（2015年）　「水辺活用に関する要望書」（水辺環境の整備やイベントの提案）を品川区に提出



第1回しながわ運河まつり（2008年）をきっかけとして、なぎさの会や勝島運河倶楽部といった地域団体との連携によって、「水辺を活かしたまちづくり」活動は広がっていく。
品川宿交流館が開館した2009年以降、さまざまテーマを擁するコミュニティ（寄ねびと）と、これまでの活動の担い手である（商店街、町会など）地元団体・コミュニティが交流し、補完し合う関係が生まれたことで、まちづくり活動が著しく活発化した。「目黒川で泳ぎ隊」の活動が生まれたのも、NPO水と緑の環境ネットワークの会のみなさんと、なぎさの会のメンバーが品川宿で出会い、意気投合したことがきっかけである。
なぎさの会のメンバーが参画し、目黒川流域交流会を設立したことによって、地元の子どもたちに向けたさまざまな水辺の活動が展開された。
【実施例】目黒川水陸清掃活動／目黒川生き物調査／目黒川源流へいこう／目黒川で泳ぎ隊／水辺体験活動リーダー講座／目黒川の川流れ／東京湾水質浄化作戦／目黒川流域シンポジウム／城南第二小学校カヌー教室など
平成27年（2015年）10月1日、まちづくり協議会、NPO目黒川五反田協議会、勝島運河倶楽部、なぎさの会、目黒川流域交流会の連名で、下記を含む「水辺の活用についての要望書」を品川区に提出した。
①カヌー利用者の拠点整備
②五反田リバーステーションと連携した拠点づくり
③勝島、八潮、立会川周辺との広域連携イベント開催
など

「目黒川で泳ぎ隊」

1980年代から宿場町の風情を復活させたまちづくりを進めてきた「旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会」と「NPO法人水と緑の環境ネットワークの会」が、ふるさとの川の再生を目指して「目黒川で泳ぎ隊」活動を2010年スタート。隊長は、水辺プロジェクトのリーダーでもある大竹幸義さん!

モットーは、「目黒川をきれいな川に戻して、地元のこどもたちが水辺の環境を身近に感じることができる環境づくり」。2012年に流域の活動団体を加えて「目黒川流域交流会」を設立し、現在に至る。地元の子どもたちを対象とした、Ｅボート体験、リーダー講習、生きもの調査、清掃活動の他、近隣学校での総合学習支援を実施。



「ふたつの運河まつり」

2008年から始まった「しながわ運河まつり」と、2017年から<しながわ水辺の観光フェスタ>の一環として始まった「秋の運河花火まつり」。共に東品川海上公園で4月と10月に開催し毎回たくさんのお客様に楽しんでもらえるようになりました。
この2つの運河まつり、似ているようで実は実行委員の思いとしては別のものになっています。春に開催する「しながわ運河まつり」について、開催当初から大切にしていることがあります。

◆イベント当日だけでなく、年間を通して地域の方や他団体との交流、ネットワークづくりをする
◆自分たちも地域のことを学びながら、新しく増える住民に自分たちの住むまちの良さを伝えていく
◆助成金等に頼らず、自分たちの手でできる範囲で最大限のことを目指す
◆子どもたちの故郷をできるだけ良い状態で引き継げるように
◆とにかく自分たちが楽しく活動している姿を見せることで、少しずつ仲間の輪を広げていく

これらひとつずつをお題目として掲げていたわけではありませんが、このようなことを呑みながら毎回熱く語っていた気がします。
幸いにも、本当に幸いにも、僕らのような新参の勢いだけのような企画に対して、当初から賛同や応援してくださる方も多くいて、資金不足で諦めかけていると聞きつけた方がポケットマネーを毎回出してくださったり、売れ残ったチラシ広告のいびつな空きスペースを全部買ってくださったりする商店街もありました。
また、資金面だけでなく、いわゆるネガティブなまちの声が僕らまで届かないように盾となり、僕らの代わりに地域を説得してくださったり、先回りして調整（口きき）してくださっていたりと、自分の力が遠く及ばない範囲でもたくさんのサポートをしていただきました。
イベントの成功も大きな目標ではありますが、地域の輪に加えていただくことが本当の意味での「子どもたちの故郷」になっていくと信じて活動続けてきました。そんな子どもたちも早い子は既に成人、社会人、結婚、子育てと、頼もしい大人へと育っています。進学や就職で巣立って行った子も多くいますが、「運河まつりで会おう」という合言葉で、年に数回里帰りしているという話を聞くと、あぁ「しながわっ子」として育ってくれたんだなぁと心から嬉しく思います。
これからも、応援してくださっている方々が「応援して良かった」と思っていただけるような運河まつりを続けていきたいと思います。



もうひとつの運河まつりについては、いずれまた。

なぎさの会　小日向 亮輔